

2号機海水配管トレーン建屋接続部における 溜まり水移送作業について

2019年6月27日

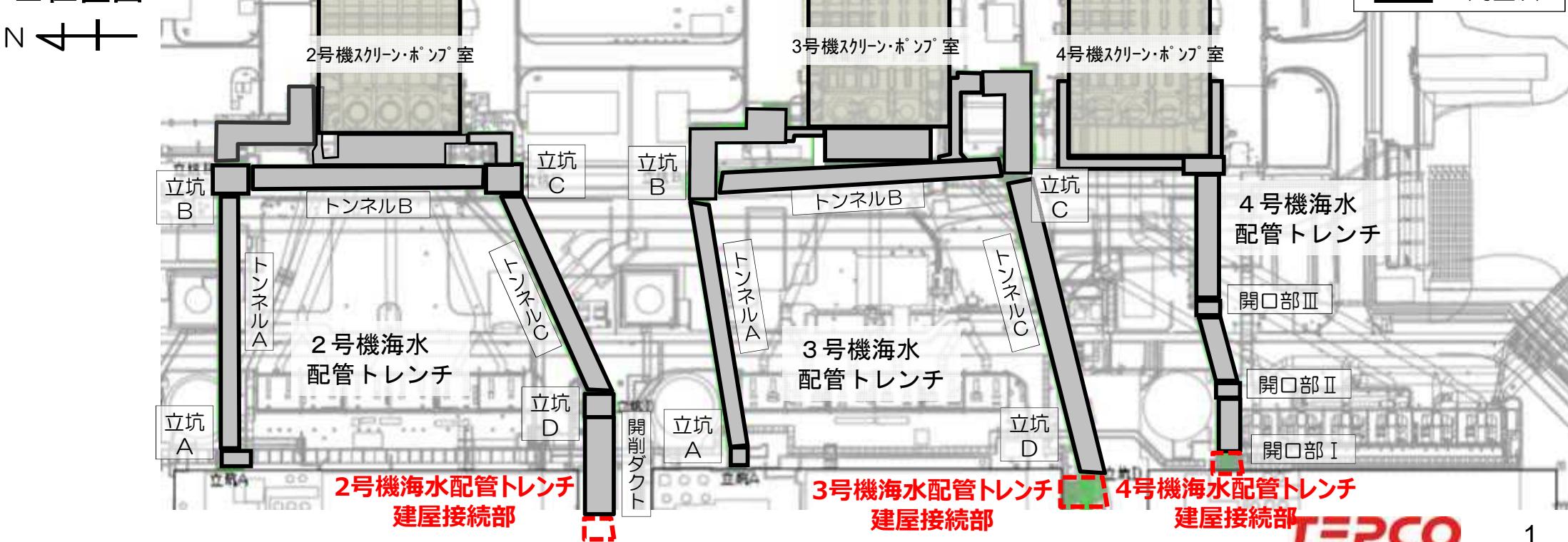
東京電力ホールディングス株式会社

TEPCO

2号機海水配管トレーナー建屋接続部閉塞工事について

- 2号機海水配管トレーニングについては2014年5月より充填閉塞工事を実施し、2号機タービン建屋（以下、2T/B）南側の建屋接続部を除き、2016年3月に工事が完了
 - 2号機海水配管トレーニング建屋接続部（以下、建屋接続部）については、建屋滞留水の水位低下に合わせて充填閉塞を行うこととしていた（原子力規制委員会 第35回監視・評価検討会にて説明済）
 - 2019年3月より建屋接続部の充填閉塞工事を開始、トレーニング頂版の削孔を行ったところ、トレーニング内部に高濃度の溜まり水を確認した（全β： 1.825×10^8 Bq/L）
 - 現状、トレーニング内水位に有意な変動は確認されていないため、前回施工当時からの溜まり水が抜けることなく、残留しているものと推定
 - 上記溜まり水を2T/Bに移送を行った上で、トレーニング内部の充填閉塞作業を進めていく
 - 3・4号機海水配管トレーニング建屋接続部についても、同様に7月中旬より充填閉塞工事を着手する予定

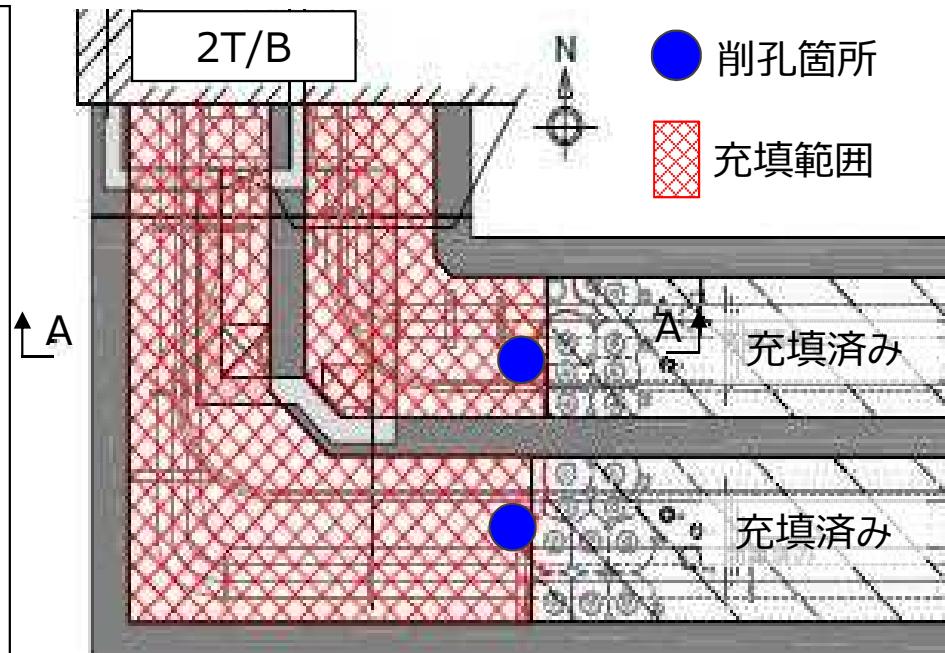
■ 位置図



2号機海水配管トレーンチ建屋接続部溜まり水の移送作業について

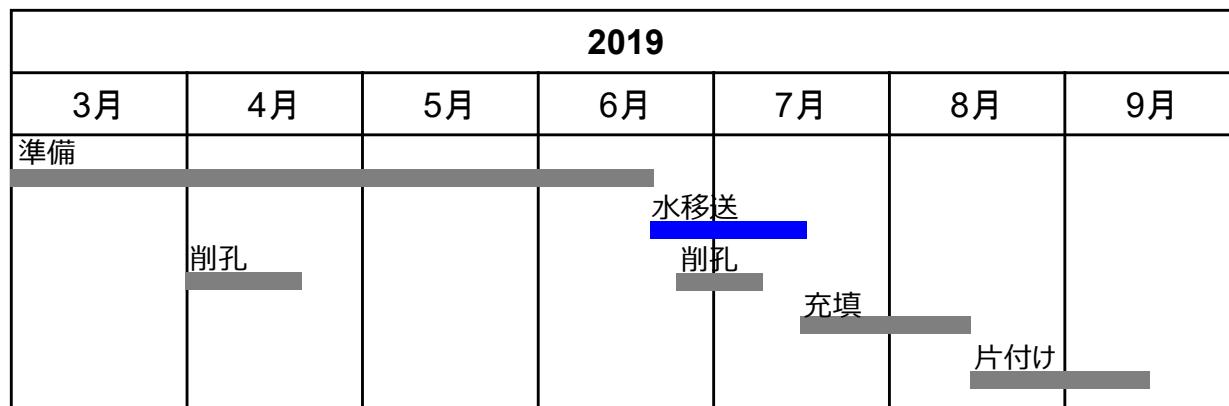
【概要】

- 移送量（予定）：約140m³
- 溜まり水濃度：全β： $1.825 \times 10^8 \text{Bq/L}$
- 建屋接続部から2T/B内排水箇所まで耐圧ホース（延長：約150m）を敷設し、ポンプにより溜まり水を移送
- ホースの二重化、ホース接続部に受けパン設置等の漏洩対策と被ばく対策を確実に行った上で移送作業を実施
- 水移送作業期間（予定）：6/19～7月中旬
※トレーンチ内部の状況、水量等により変更の可能性有

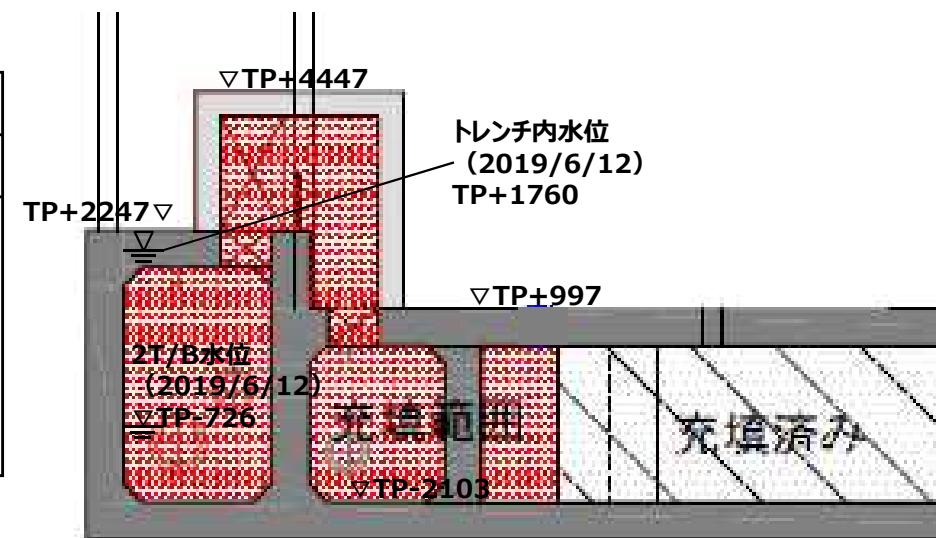


2号機海水配管トレーンチ建屋接続部平面図

2号機海水配管トレーンチ充填閉塞・溜まり水移送 概略工程



※トレーンチ内部の状況、水量等により変更の可能性あり



2号機海水配管トレーンチ建屋接続部断面図 (A-A)

2. 3 2号機:立坑A,D充填後の方針

- 立坑A,D充填2サイクル目実施中の水位変動状況から推定できることは下記の通り。
 - 立坑A・Dはタービン建屋と水位差を保持している状況から、立坑Aおよび開削ダクト部における凍結止水が進展し、タービン建屋とトレーンチ間における連通がほぼなくなったものと推定。(温度データは参考資料参照、内部の凍結状況等については現在確認中)
 - 立坑A～トンネルAおよび立坑D～トンネルCの連通は立坑充填1サイクル目に比べ小さくなったものと推定。
- 但し、トレーンチ内における連通が残存している可能性を考慮し、当面の間、立坑内および周辺について監視を行う方針とする。
- 監視は設置高さが最も低い立坑Cで実施する計画とし、立坑A上部、立坑B、開削ダクト部は順次トンネル閉塞材料で充填・滞留水の除去を進める。
- 立坑Aのキャッピング材打設およびその他立坑等の充填により、連通がなくなったと判断できた場合は立坑周辺のみの監視へ変更を検討。
- なお、開削ダクト部の凍結箇所より建屋側については建屋との連通があるが、現状、滞留水の除去および内部充填が困難であるため、建屋滞留水の水位低下に合わせて充填を実施する方針。

